

# 福祉みやぎ

## CONTENTS (主な内容)

- P 2** 特集  
みやぎの地域共生社会の実現を目指して  
～令和7年度 第1回宮城県地域共生社会  
推進会議を開催しました～
- P 4** 「令和8年度宮城県社会福祉政策の  
充実・強化に向けた要望書」を提出しました

- P 6** グッジョブFUKUSHI  
社会福祉法人柏松会 南吉成すぎのこ保育園
- P 7** 加美町社会福祉協議会  
みんなの畑  
～住民の願いを叶える取組～
- P 8** ちいきをつなぐ  
離島での民生委員活動  
～東日本大震災を経た浦戸諸島の今～

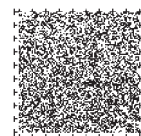
- P 10** 宮城いきいきシニアだより  
宮城いきいき学園 仙南校編
- P 11** 県社協ってこんなことやってます  
宮城県福祉人材センター
- P 12** 県社協掲示板



**タイトル** もみじとみの子～紅葉とミノムシの子供たち～

**作者** 小規模多機能型居宅介護事業所  
すけるん家上杉 利用者の皆さん

利用者さんと一緒に秋の景色を作りました。カラフルなミノムシと紅葉の木は色紙を一枚一枚丁寧に貼って作りました。



福祉みやぎアンケートへの  
ご協力をありがとうございます。

皆さまからのご回答は、今後の誌面  
づくりの参考とさせていただきます。  
引き続き、福祉みやぎアンケートへの  
ご協力をお願いします。

### 福祉みやぎアンケート

「福祉みやぎ」に対するご意見・  
ご感想をお待ち  
しています。

回答はこちら。▶



宮城県社協の  
ホームページもご覧ください

宮城県社会福祉協議会

検索



## 社会福祉法人旭が丘学園

### 旭が丘学園・児童家庭支援センター

宮城県気仙沼市舘山二丁目2-32

電話 0226-22-6677

### 《子育てを一緒に考えませんか》



## ボランティア・福祉活動行事保険をご利用ください

「ボランティア団体で主催する行事」や、「高齢者施設への慰問や福祉まつりなど、福祉的な行事」を安心して行うための制度です。  
日帰り行事も宿泊行事もご加入いただけます！

日帰り行事の場合には、内容により保険料が異なります。

|     |                        |      |
|-----|------------------------|------|
| A区分 | 高齢者スポーツ大会、お茶のみ会、各種教室など | 30円  |
| B区分 | 運動会、日帰りキャンプ、サイクリングなど   | 136円 |
| C区分 | サッカー、ラグビー、スキーなど        | 266円 |

お問い合わせ

みやぎボランティア総合センター  
(株)オンワードマネジメント

TEL 022-739-9843  
TEL 022-762-9915

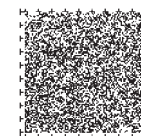
この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。

日帰り行事は  
熱中症・食中毒も  
補償されてますます安心！

この印刷物は、植物性油インキを使用し、  
環境にやさしい水なし印刷方式を採用しています。



「福祉みやぎ」は宮城県社協のホームページでもご覧になれます。  
また、ご意見、ご感想、取り上げてほしいテーマなどをお寄せく  
ださい。表紙の作品も募集しています。





## みやぎの地域共生社会の実現を目指して

令和7年度 第1回 宮城県地域共生社会推進会議を開催しました



令和7年8月26日に開催した宮城県地域共生社会推進会議は、令和4年2月に宮城県と本会が共同で立ち上げたプラットフォームで、7回目の開催となりました。

今回は、県内の取組事例の紹介を通じて、地域共生社会の実現に向けて理解を深めることを目的にオンラインにより開催しました。

### 基調講演

地域共生社会の実現に向けた  
様々な主体との連携  
～居場所づくりの実践から～

●宮城県児童館・放課後児童クラブ  
連絡協議会  
副会長 荒木 裕美 氏

#### 【主な発表内容】



自身の経験から、子育ては家庭や当事者同士の支え合いだけでは限界があり、

地域とつながることの大切さを感じました。見つけてもらえるのを待つのではなく、自ら手を挙げて動く必要があると思います、NPO法人を立ち上げました。

様々な取組を通じて、地域における顔の見えるつながりづくりや子育て世代が安心して過ごせる居場所づくりを行うことで、妊娠期から18歳未満の子どもを育てる世代まで切れ目なく寄り添う活動を行っています。また、無償のボランティアで行う家庭訪問型の子育て支援などの取組を行うことで、支え合える人を増やし、既存の制度では対応しきれない制度の隙間を埋めることにもつながっています。

### 事例報告

様々な主体が連携している  
取組

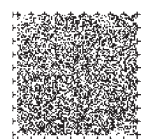
●みさとこマーケット実行委員会  
代表 桜井 志朗 氏

#### 【主な発表内容】



令和4年から美里町で誰もが主役になれるイベントの「みさとこマーケット」を行っており、町内の店舗を中心としたブースの出店や宮城県小牛田農

地域共生社会を進めていくにあたり、子ども自身も社会に参加する主体であり、「町を良くしたい」という思いを持っています。そのため、子どもたちも地域づくりの仲間に入れてほしいと思っています。今後はこれまでの制度などでつながれていなかったものをまぜこぜにし、子どもから大人まで安心して暮らせる居場所をつくり、そのような場所を活用して機運の醸成につなげていきたいと考えています。



### 総評

●宮城県児童館・放課後児童クラブ  
連絡協議会  
副会長 荒木 裕美 氏

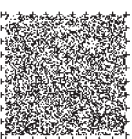
今回の事例報告を通じて、様々な主体とのつながり方を知ることができ、活動へのヒントになったと思います。どの発表にも共通していた「連携」という言葉は、一般的に横につながるイメージがありますが、発表を聞いていると横につながることで、将来につながる縦軸も見えたように感じました。また、直接会うことも大事なことです。また、情報を共有することで、直接会えなくても気に掛けあうことができるものであり、それだけ情報には力があると思いました。人とつながり、共有することの大切さを再認識する機会になりました。

協議会の設置により、民間団体を含めた構成員間で個人情報共有が可能となり、これまで埋もれがちだった気になる人に関する情報についても、消費生活センターに情報が寄せられるようになったことで、消費者被害の早期発見が可能となりました。

消費者被害の未然防止や早期発見に向けた取組は、地域での見守りが重要です。消費者被害にかかわらず気になることがあれば、行政や各窓口につながるなど、若い世代にも地域の見守りをもっと広めていきたいと考えています。

今後も市民が、安全に、安心して生活できる地域を目指してまいります。

今後も、本会では地域共生社会の実現に向けた取組を共有し、取組の活性化に努めます。令和7年12月22日には東北学院大学土樋キャンパスで今年度2回目の会議を開催予定です。詳細はホームページをご覧ください。



林高等学校吹奏楽部による演奏、キッズ向けハロウィンウォークラリーなどを行っています。この取組は、4年前に美里町に移住してきた2人の女性が「美里町の人はなぜこんなに自分の町に自信がないんだろう」と思ったことがきっかけで始まり、美里町の魅力をたくさん知ることができる「美里町のテーマパーク」にすることをコンセプトに毎年開催しています。

地域に埋もれている人材を発掘、紹介できる場であり、参加者や出店者同士の出会いの場となることで、新たな挑戦につながっています。小学生から高校生までのボランティアが企画から関わることで、社会体験の場にもなっています。

今後もこの取組を通じて、美里町の子どもも大人も地域を知り、地元に誇りを持てるような取組を目指していきたいと考えています。

●一般社団法人フリースペースつなぎ  
代表理事 中村 みちよ 氏

#### 【主な発表内容】

気仙沼市で学校に行けなくなった子どもやひきこもりがちな若者たちの居場所づくりをしたいと思い、平成25年に「フリースペースつなぎ」を始めま

した。活動を続ける中で、こうした若者を支援する団体がいないことや、生まれ育った気仙沼市で将来働く場所がないこと、イラスト作成などのスキルがあっても生かす場所がないなどの課題を感じ、令和7年3月に「つなぎ工房」をオープンしました。

「つなぎ工房」では、地域住民が買い物に不便を感じているとのニーズがあり、日用品や食料品の販売を行っています。この取組を始めたことで地域住民との交流が増え、高齢者から「手が届かない窓の掃除をしてほしい」などの要望が寄せられるようになりました。

今後は生きづらさを感じている若者に対する地元企業や地域住民の理解を進めるため、若者の力を地域に展開しながら、住民と一緒に地域づくりを行っていききたいと考えています。

●大崎市民生部社会福祉課  
生活相談担当兼消費生活センター  
主幹兼係長 小野松 恵利子 氏

#### 【主な発表内容】

大崎市消費者安全確保地域協議会





支え合い、多様な分野が連携・協働する地域共生社会の実現が求められています。

つきましては、本県では、宮城県、市町村、県内各社会福祉協議会及び福祉関係団体等で構成される「宮城県地域共生社会推進会議」が設置され、地域共生社会の実現に向けた機運醸成が図られているところですが、県内各地域において、分野を超えた連携や協働がなお一層なされるよう、幅広い取組の推進をお願いいたします。

2 福祉施設・事業所の安定的な運営のための財政支援について

福祉施設・事業所は、国が定める公定価格により経営しているため、人件費や食材費・燃料費の高騰の影響を価格に転嫁できず、処遇改善加算や各種の助成・補助を活用しているところですが、このところの厳しい経営環境に対し、経営努力のみで対応していくことは困難な状況にあります。

例えば介護分野では、2024年における事業者の倒産件数が介護保険制度開始後で過去最多となるなど、支援を要する地域住民が、必要な介護サービスを利用できない状況が生じること

「令和8年度宮城県社会福祉政策の  
充実・強化に向けた要望書」を提出しました



▲左から、宮城県老人福祉施設協議会 木村伸裕会長、宮城県障がい者福祉協会 伊藤清市副会長、宮城県民生委員児童委員協議会 高橋米徳会長、宮城県社会福祉協議会 佐々木均会長、宮城県保育協議会 工藤史会長、宮城県 伊藤哲也副知事、宮城県社会福祉法人経営者協議会 庄子清典会長、宮城県共同募金会 佐藤隆雄副会長、宮城県母子福祉連合会 引地淑子会長

10月7日、本会を含む県域の福祉関係8団体から行政6団体※に対して、福祉業界全体に関する要望活動を行いました。提出した要望書の内容と頂いた回答の要旨をご紹介します。

※行政6団体とは、宮城県、宮城県議会、宮城県市長会、宮城県市議会、宮城県長会、宮城県町村会、宮城県町村議会、議長会です。

令和8年度宮城県社会福祉政策の充実・強化に向けた要望書

1 地域共生社会の実現に向けた取組の推進について

社会情勢の変化やライフスタイルの多様化などを背景として、介護と育児のダブルケアや社会的孤立など、県民が抱える課題は複雑化・複合化しています。このような中で、国では高齢や障害など属性を問わない包括的な支援体制の構築を推進しており、県内市町村においてもその取組が徐々に進められていくと見られます。

県民の一人一人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、福祉分野のみの対応ではなく、地域住民が

福祉施設の経営については、公定価格で運営していることもあり、物価高騰に対応しきれず厳しい状況であると認識しています。県では光熱水費の補助などを行ってきましたが、根本的な解決には報酬の引き上げが不可欠であ

るため、物価上昇に応じて介護報酬等をスライドさせる仕組みの導入や、公定価格の見直しなどを国に要望してき  
ました。

福祉施設が安定した運営を継続できるように、今後も国へ働きかけるとともに、関係団体からの意見を踏まえて支援を行ってまいります。

福祉分野の人材不足の解消には、若い世代の福祉に対する関心を高めることが重要であると認識しており、「宮城県福祉人材センター」において大学生や専門学生向けのガイダンスを開催して福祉の仕事の魅力を伝えるなど、福祉分野への就労を促してきました。また、小学生を対象とした「福祉のまちづくり読本」の配布や、福祉の仕事の魅力を伝える出前講座などを通じて、若い世代の福祉に対する関心が高まるよう取り組んできました。

引き続き関係機関と連携し、福祉人材と地域活動の担い手確保に向けた取組を進めてまいります。

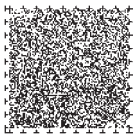
宮城県議会 高橋伸二議長  
からの回答要旨

地域社会を取り巻く環境が変化する中で、地域住民が支え合い、多様な分野が連携・協働する地域共生社会の実現、そして、公定価格で価格転嫁が難しい仕組みとなっている福祉サービスの安定的な提供体制を確保することは喫緊の課題であると認識しています。

県議会としても、県民の皆様が安心して生活できる地域社会の実現は大きなテーマであり、その課題の克服に向けて皆様の活動がより充実した形となるように、しっかりとサポートしてまいります。

本日御要望いただいたこのことについては、議員間でしっかりと共有し、課題解決に向けて、様々な形で取組を強化してまいります。

今後も、関係団体と連携して社会福祉政策の充実・強化に向けた取組を行ってまいります。





## みんなの畑 ～住民の願いを叶える取組～

加美町社会福祉協議会では、地域住民や地元企業の協力の下、デイサービス利用者の願いから生まれた「みんなの畑」プロジェクトを、令和6年度から始動しています。その取組について、加美町社会福祉協議会の生活支援コーディネーターとして地域住民への支援に携わっている、今野大<sup>だい</sup>さんにお話を伺いました。



▲ボランティア友の会（前列の4名）  
左から相澤さん、大類さん、吉岡さん、加藤さん

収穫した野菜は、デイサービスセンターで昼食の食材として活用しています。現在は、芋煮会に向けて白菜や人参を育てています。

「みんなの畑」プロジェクトは、誰でもいつでも好きな時に来て、畑仕事をするもよし、お茶っこ飲みをするもよし、地域の高齢者や子どもたちなどの多世代が、気軽に集まって交流できる場を作ろうと、をコンセプトに、小野田西部デイサービスセンターに隣接する町有地を借りて始めました。

ボランティア友の会の皆さんが、不定期で草取りや水まきなどの畑の管理をしてきています。このプロジェクトを盛り上げるため、ボランティア友の会の皆さんからの提案でお花を植えてみるなど、利用者や地域住民が楽しめるよう日々試行錯誤しています。

### Q 取組の内容について教えてください。

きつかけは、ケアマネジャーからの「70代のデイサービス利用者が、年代の違う利用者とは共通の話題が少ないと言っている。自宅で畑作業をしたいが、ご家族が心配するので、できないようだ」との相談でした。それならば、デイサービスセンターに畑を作り、利用者だけではなく、地域住民が誰でも集える場にしよつという方向性で進めることになりました。

町役場や区長、地域住民など多くの方々が畑の基礎作りから積極的にご協力くださいました。意外だったのは、地元企業が地域貢献活動に積極的だったことです。「みんなの畑」のおかげで、企業との新たなつながりも生まれました。費用面では、宮城県社会福祉協議会からの助成金を活用しました。

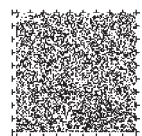
### Q 今後の展望についてお聞かせください。

今後は、畑に安心して集えるよう、作業の見学や休憩に活用できる環境を整えたいです。将来的には、認知症カフェとしての側面も持たせていきたいと考えています。

加美町  
公式YouTube



▲加美町社会福祉協議会  
今野 大さん



▲畑作業の後は、みんなでお茶っこ飲みを楽しみます。

活動の様子は、ボランティアさんが作成に協力した動画でご覧いただけます。  
(左記2次元コードから)

**ボランティアさんの声**

まだまだ始まったばかりの小さな畑ですが、野菜や花をたくさん植え、みんなでお茶っこ飲みを楽しみながら、集まる人たちがやさしい気持ちになれる場所になるよう盛り上げていきたいです。

## グッジョブ FUKUSHI

このコーナーでは福祉の仕事や団体などについて  
紹介します！

今回は社会福祉法人柏松会 南吉成すぎのご保育園を訪問し、子どもたちの園での生活の様子や、地域との関わりについてお話を伺いました。

笑顔で出迎えてくれたのは、園長の廣村恵先生です。明るい園舎では0歳から6歳の子どもたちがちょうど3時のおやつを食べていました。廣村先生が「今日のおやつはミートポテトパイです。給食は全て園の調理員さんの手作りです」と言って、ガラス張りの給食室の前でミートポテトパイを見せてくれました。さくらんぼ、みかん、いちご、と果物の名前がついた教室の前を通り、広いホールまで来ると、社会福祉法人大石ヶ原会の「特別養護老人ホーム青葉ふるさと村」が、フェンスを隔てたすぐ目の前に見えます。「子どもたちがこのホールで遊んでいると、お隣のおじいちゃんやおばあちゃんがフェンスのそばまで来てくれるんですよ。夏祭りや敬老会では、子どもたちが訪問し、歌や踊りを披露しています。今は核家族が多いので、家族以外の人から拍手をもらうことは子どもたちの自信にもなっています。おじいちゃんやおばあちゃんと上手に会話ができません



▲青葉ふるさと村の利用者と園児の交流の様子

ても、手を繋いでいるだけみたいな自然と笑顔になっていますね。家では見せない姿や様々な表情も写真に収めて保護者の方に見てもらっています」と、廣村先生が教えてくれました。

2階へと続く階段の踊り場にも目をやると、ステンドグラスから、虹色の優しい光が差し込み、子どもたちを包み込むようなあたたかさを感じられます。階段を上り、絵本図書館という部屋を見せていただきました。「ちょうどいいサイズの部屋で落ち着いて本を読むことができます。絵本は子どもたちの感性を豊かにしてくれますし、食育や演劇にも題材として活用しています。それぞれにお気に入りの絵本があり、子どもたちに貸出しもして



▲お気に入りの絵本について話す園児と園長の廣村先生

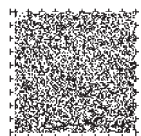
いるんですよ」と廣村先生が話され、取材のあとに、子どもたちを絵本図書館に連れてきてくれました。「私のお気に入りの絵本！あれもー」と元氣いっぱいにお気に入りの絵本を紹介してくれました。

栄養士、看護師による育児相談も行ってきました。子ども園への移行後も、園が地域の子育ての拠点になれると嬉しいですね。近隣には、特別養護老人ホーム、クリニック、小学校や児童館があり、職場見学をさせてもらったり、小学生のお兄さんやお姉さんに学校生活について教えてもらったりしています。南吉成ではそれぞれの施設や住民同士が地域社会の福祉を支えていて、子どもたちも、地域の中で人と人をつなぐ重要な役割を担ってくれています！」

社会福祉法人大石ヶ原会  
青葉ふるさと村



社会福祉法人柏松会  
南吉成すぎのご保育園







▲サロン活動の様子



▲サロン活動で作成した作品と参加者

一方、浦戸諸島では小さな地域で住民同士がお互いを知る関係性の中、支援が必要な一人一人にじっくりと時間をかけて向き合つことが出来ます。浦戸諸島ならではの密な「コミュニケーション」の中で、個々の生活状況や家庭の事情に寄り添いながら、丁寧な支援を行うことができます」



▲取材時の様子



今回紹介したように民生委員は、地域福祉を推進していく上で非常に重要な役割を担っています。地域での活動を継続的に支えるために、本会では宮城県民生委員児童委員協議会と連携し、研修会などを通して民生委員の活動を支援していきます。

### 最後に

## ちいきをつなぐ 離島での民生委員活動 ～東日本大震災を経た浦戸諸島の今～

令和7年12月に全国で「民生委員・児童委員の一斉改選」が行われます。民生委員・児童委員（以下「民生委員」という。）は厚生労働大臣からの委嘱を受け、3年の任期の間、一人暮らしのお年寄りや生活に困っている人などの世帯状況を把握するほか、地域住民の様々な相談に応じたり、見守り・声掛けや福祉サービスを利用するためのお手伝い等に取り組むこととなります。

今回は塩竈市社会福祉協議会が浦戸諸島で行っているサロン活動に民生委員が協力し、長年継続してきた事例について紹介します。

### 浦戸諸島の紹介

浦戸諸島は、塩竈市東部に位置し日本三景・松島湾に浮かぶ桂島、野々島、寒風沢島、朴島の4つの島からなる小さな群島です。現在、約300人の住民が暮らしています。各島へは塩竈市営汽船や島内間を結ぶ渡船で訪れることができ、豊かな自然の中でゆったりとした島の時間を感じられます。砂浜や漁港、花畑など変化に富んだ風景の中で、ハイキングや釣り、海水浴のほか、漁業体験や歴史探訪など四季折々の楽しみが広がります。

浦戸諸島では4名の民生委員がそれぞれの地区を担当しています。担当地区は、野々島に1名、桂島の桂島地区と石浜地区にそれぞれ1名、そして寒風沢島と朴島の2島をあわせて1名です。小さな地域ならではの顔の見える関係を生かし、島民一人一人に寄り添った支援活動が続いています。

### 塩釜市東部地区民生委員児童委員協議会について

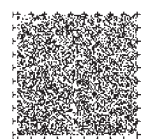
塩釜市東部地区民生委員児童委員協議会（以下、「東部民児協」という。）では、民生委員17名、主任児童委員2名が活動しています。

東部地区は沿岸部に位置しているため、2011年の東日本大震災では津波の被害を受けました。浦戸諸島でも犠牲者が出るとともに、港や住宅などに大きな被害がありました。震災直後から東部民児協の会長を務める佐藤京子さんは、「最初は民生委員として食料や支援物資の配布活動に取り組みました。その後、震災前から施設訪問などのボランティアでフラダンスを行っていた経験を活かし、浦戸諸島でも体を動かす活動や孤立防止を意識した取組を続けました」と話しています。

### 島民を支えるサロン活動と民生委員の皆さん

浦戸諸島で行われているサロン活動は、もともと東日本大震災の復興

支援活動として始まりまし。現在も、災害公営住宅にお住まいの方を含む島民の皆さんが参加しており、季節に応じた手芸やダンス・体操など、多彩な内容で交流の場を提供しています。概ね月1回、各島の集会所などで開催され、各回10人前後の島民が楽しく活動しています。



取材で訪れた桂島の9月のサロン活動では、正月飾りを製作しており、参加者の皆さんが思い思いにだるまなどを作っていました。民生委員の方々も参加者の様子に気を配りながら、自らも楽しんで活動している姿が印象的でした。「まずは自分が楽しむこと。そして参加者の皆さんが楽しめるよう、周りを見ながら声掛けを積極的に行っています」と、参加していた民生委員の方々は話してくれました。

浦戸諸島の民生委員の方は、島の活動について次のように話します。「住民が多い地区を担当する民生委員は、1人で多数の方の支援にあたり、とても忙しいと聞きます。

### 一斉改選に向けてのメッセージ

令和7年12月に迫った「民生委員・児童委員の一斉改選」にあたり、浦戸諸島で活動する民生委員の皆さんから、新しく民生委員に就任される方々へのメッセージをいただきました。

● 訪問活動の際には様々な情報を持つていくことが大切です。そのため、日ごろから民生委員同士の情報交換などを積極的に行ってみてください。

● 市内や人口の多い地区では1人で多くの方を担当することもあります。苦労もあると思いますが、先輩たちは必ず相談に乗ってくれます。安心して相談してみてください。

● 初めて民生委員になったときは、まずは前任者の取組を引き継ぐことを意識しました。



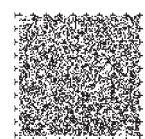
▲中央：佐藤会長、左右：浦戸諸島の民生委員の皆さん

初めてでも焦らず、目の前の方とどのように関わるかを大切に活動してください。

（野々島・鈴木 美恵子さん）

民生委員活動は1人で全てを抱えるものではありません。先輩や仲間と相談しながら活動できますので、無理せず仲間と一緒に取り組んでください。

（寒風沢島、朴島 稲富 泰裕さん）





## 宮城県福祉人材センター

### ふくしのお仕事 スタンプラリー

4つのブース（山元町地域包括支援

#### …当日のスケジュール…

- ふくしのお仕事スタンプラリー
- 障害者施設の見学
- 災害時でもできるお菓子作りと防災クイズ
- 新聞紙スリッパ作り
- キャップハンディ体験
- ふり返り

8月5日、山元町社会福祉協議会（以下「山元町社協」という。）と共同で、福祉の仕事を知ってもらうことを目的に「ふくしのお仕事探検ツアー」を開催しました。山元町内の3か所の小学校から、元気な5～6年生の6人が参加してくれました。

宮城県福祉人材センターでは、県内の福祉人材の確保・育成・定着を目指し、福祉分野専門の無料職業紹介事業のほか、就職フェアの開催、福祉従事者や事業所向けの研修、アドバイザー派遣等を行っています。

今回は、若年層に向けた福祉の仕事の魅力を発信する取組を紹介します。

### ふくしのお仕事探検ツアー

#### 障害者施設の見学



▲なないろ保育園のブース

センター、山元町社協の訪問介護事業所、山元町役場（作業療法士）、なないろ保育園）をまわり、それぞれの仕事の内容や町内の地域資源について話を聞きました。スタンプラリーをクリアすると、文房具やクッキー等のうれしいお土産にニッコリ！

### 災害時でもできる お菓子作りと防災クイズ

ビニール袋に材料を入れてモミミミ、少ない調理器具でチョコバナナ蒸

2か所の障害者就労継続支援B型事業所を見学しました。「山元いちご農園 いちごホーム」では箱折作業やけずりイチゴの製造、「山元町共同作業所」ではボールペンの組み立て作業を見学しました。障害特性に合わせた仕事の工夫と障害のある人の丁寧な仕事ぶりに、子どもたちのまなざしは真剣でした。

### 山元町社協 西さんの思い 子どもたちに伝えたいこと

#### ……子どもたちの感想……

- 山元町のこと、福祉のことを知ることができた。
- 障害のある人が働く所がたくさんあることがわかった。
- 将来は福祉の仕事もしてみたいけれど、他に夢や目標があるからまだわからないな。

調理の待ち時間には、山元町社協による東日本大震災の経験を生かした防災クイズを行いました。参加者同士で考えを深めながら回答していました。日頃から家族等と防災について話し合うことが大切だと思います。

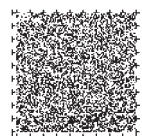
るのではなく、福祉について考えるきっかけとなる事業や体験を今後も企画したいです。



▲山元町社協の西さん

#### 問い合わせ先

宮城県福祉人材センター  
住所：仙台市青葉区上杉3-3-1  
みやぎハートフルセンター3階  
TEL：022-262-9777  
<https://fukushi.miyagi-sfk.net/job>  
※各種イベント情報等も紹介しています。



## 宮城 いきいき シニア だより 宮城いきいき学園 仙南校編

平成3年に開校した宮城いきいき学園仙南校は、今年度、第34期生として20名の新入生を迎えました。2年生22名を含めた42名の学園生が、様々な学習やスポーツ、文化活動に和気あいあいと取り組んでいます。

今年度から交流会など新しい取組を始めました。その様子をご紹介します。

### オンライン交流会

8月27日に、仙南校、大崎校、石巻校の3校による合同オンライン交流会を行いました。この交流会は、各校の学園生同士の交流を深めることを目的とした試みです。



▲3校合同オンライン中継



▲仙南校紹介の様子

### 地域貢献基礎講座

交流会では、ご当地クイズを行ったほか、2年生のレクリエーション委員長から、蔵王町の観光PRキャラクター「ざおつさま」や蔵王町の名産「梨」の紹介を行いました。スクリーン越しの交流でしたが大いに盛り上がり、3校の親睦を深める良い機会になりました。

同日の午後は「地域のボランティア活動について」をテーマに、白石市、岩沼市、蔵王町、大河原町、村田町、川崎町の各市町の社会福祉協議会（以下「社協」という。）の方々を招いて学びました。これは、学園生が卒業後にそれぞれの地域でボランティア活動を行う機会を広げていくために開催したものです。

はじめに、各市町の社協の方々からボランティア活動の現状などについてお話しいただき、活動についての理解を深めました。

その後、学園生がお住いの市町ごとのグループに分かれて、各市町の社協の方々と交え、情報交換を行いました。それぞれの地域について真剣に話し合い、その内容をグループごとに発表することで、自分の地域についての理解を深めるだけでなく、他の市町の現

状についても学ぶことができました。

各市町社協の方々のご協力により、地域で必要とされるボランティア活動についてより深く理解することができました。学園生には、今回の新たな学びを、今後の学園生活や卒業後の活動に生かしていただきたいと思います。



▲ボランティア活動の現状説明を聞く学園生



▲情報交換会の様子